



2019年3月期第2四半期決算説明会概要

11月2日(金)、東京放送ホールディングスの2019年3月期第2四半期決算の説明会が行われました。概要は以下のとおりです。

出席者：東京放送ホールディングス代表取締役社長 佐々木 卓
専務取締役 河合 俊明
取締役 伊佐野英樹

参加者：およそ 40名

〈決算ハイライトほか〉 佐々木社長

▼スポット軟調も映像・文化事業が下支え 通期予想は修正せず

第2四半期の連結決算は地上波のスポット広告が軟調の中、大型スポーツ番組のタイムセールスやTVer等の無料動画配信、映像文化事業が好調で増収を維持。想定通りスポーツ放送の費用増加により営業利益以下は減益。通期の予想は、中核となるテレビ放送事業はスポット市況が若干上向いており、下期の地区投下は前年に近い水準だと想定。当社では、視聴率向上によるシェアアップや堅調なタイム収入で売上を下支えしていく見込みで、また映像文化事業のスタイリングライフグループは大幅な増収となり、営業利益は過去最高を更新する予想。そのため、通期の業績予想は、売上、各利益とも修正していない。

▼グループ中期経営計画2020 進捗状況

①TBSテレビの競争力向上 最強・最良コンテンツを創出

2018年度の上期視聴率は全ての時間帯で前年を上回る数字を達成した。特にG帯は僅差での3位となった。G帯が二ケタの数字となったのは7年ぶり。

②TBSシナジーを生む総合メディアの多様化と挑戦

③TBSグループが果たすべき社会的責任の遂行

新しい取り組みとして、子会社のTBSイノベーション・パートナーズ合同会社を通し、再生可能エネルギー事業に取り組む「みんな電力株式会社」へ出資した。みんな電力は、各地の再生可能エネルギー発電所から調達する電力を、独自の電力取引プラットフォーム上で販売するベンチャー企業。出資と同時に、再エネ活用の協力支援を推進する業務提携契約を締結した。手始めとして、TBSラジオ戸田送信所の100%再エネ化を12月から行う。必要な電力は、新潟県の小規模水力発電施設から供給される予定。

〈TBSグループの財務状況など〉 河合専務

第2四半期の業績について、連結は、売上高は増収だが、営業利益以下は減益。TBS テレビ単体ではスポット市況が軟調だったが、タイム広告や無料動画配信等でスポット減収分をカバーしほぼ前年並みの収入を確保。一方、事業部門はイベントの開催規模の違い等から減収。さらにスポーツ番組の制作費増加で、テレビ単体では減収減益。TBSテレビの収入の内訳について。テレビ事業部門、タイム収入は、ワールドカップやアジア大会等のスポーツ単発番組のセールスが好調で7億円の増収。一方、スポット収入は、TBSのシェアは改善しているものの地区投下量が伸びず、13億円の減収。またコンテンツ収入は無料動画配信等が貢献し、3億円の増収となった。事業部門は17億円の減収となったが利益は確保。

主な連結会社の業績について、TBS ラジオの売上高は3億円減収の47億円。一方、ナイター終了に伴う制作費の減少で、営業利益以下は微増益となった。BS-TBSの売上高は、タイム、スポット共に軟調で2億円の減収、営業利益以下は減益だった。スタイリングライフグループの売上高は、化粧品関係の商材のヒットが続いていること等で、22億円の増収。特に営業利益と最終利益に関しては前年に引き続き史上最高益を達成した。通販のグランマルシェの売上高はテレビショッピングが堅調で、3億円増収の74億円となった。一方で、配送費の大幅値上げ等により営業利益以下は減益。

〈視聴率、映像・文化事業など〉 伊佐野取締役

上期視聴率は、全日帯6.3%(+0.2)、G帯10.0%(+0.4)、P帯9.9%(+0.4)と全ての時間帯で昨年を上回った。視聴率の向上に貢献したのが、まずはドラマで、『義母と娘のブルース』は若干の上下動はあったが視聴率は上昇を続け、最終回はこのクールのドラマではナンバーワンの数字を達成。日曜劇場『ブラックペアン』も大変に高い数字を獲得した。アジア大会も大変盛り上がった。競泳陣の大活躍や、マラソン、トラック競技での日本選手の健闘にまさに日本中が沸き返った。平均視聴率は2014年の仁川大会に比べて2ポイントも上昇した。バラエティ・情報番組等も視聴率向上に貢献。番組の制作費も、上期は大型スポーツ番組が集中したもののコストコントロールに努め、想定以下の増加に抑えることができた。下期も、効率的・効果的な番組制作を行い、通期の番組原価は期初の予想よりも12億円の減少となる見込み。

10月編成は「家族で見られる」番組を揃え、ファミリーコア視聴率を向上させ、2位以上を狙うための足固めを進める。まず、バラエティの更なる強化を行った。『1番だけが知っている』『消えた天才』をスタートさせ、『東大王』を水曜へ枠移行し、今のところ堅調な滑り出し。また、全日帯、ノンプライム帯のベルト番組を強化した。新編成の途中経過は、G帯、P帯がいずれも二ケタの数字を維持し、好調な滑り出し。全日帯、ノンプライム帯は、どちらも4位から3位に順位を上げている。

事業部門:映画事業について、「コーヒーが冷めないうちに」は興収14億円が見込めるヒット作となっている。2月公開の「七つの会議」は池井戸潤さん原作の話題作で、長く池井戸ドラマを手掛けてきた当社の福澤克雄が映画監督を務める。「スマホを落としただけなのに」は今日から公開、12月公開の「ニセコイ」はコミック原作のラブコメディ。

ステージアROUND東京について、劇団☆新感線「メタルマクベス」は7月からロングラン公演中。今月9日から開演する「disc3」はチケット完売の公演が相次ぎ順調な滑り出し。展覧会について、「ルーベンス展」を国立西洋美術館で開催中。最初の1週間で約2万人のお客様にお越し頂くなど、大変賑わっている。

以上